

第77回車座集会（多摩区）結果概要

1 開催概要

日 時 令和7年11月30日（土） 10:00～12:00

場 所 専修大学サテライトキャンパス

（1）テーマ等

3大学（専修大学・明治大学・日本女子大学）と
地域がつながるまちづくり

- ◆ワークショップ① 大学と地域の連携
課題①大学の知見を地域に還元、地域を研究の
フィールドに
課題②学生によるまちの課題解決・活性化 +
多摩SDCの人材確保・育成

- ◆ワークショップ② 3大学同士の連携

- ◆意見交換 ワークショップを踏まえた意見交換

（2）参加者、傍聴者

計38名（参加者28名、傍聴者10名）

2 アンケート結果

2ページ以降参照

3 意見交換の概要等

8ページ以降参照

第77回車座集会（多摩区）アンケート集計結果

回答率：100%

参加者 19/19人

（ファシリテーター及び区職員除く）

●今回の実施内容について

問1 本日のテーマはいかがでしたか。

（参加者）

よい	よくない	どちらともいえない
19	0	0

参考：（傍聴者）

よい	よくない	どちらともいえない
4	0	1

問2 本日参加いただいた御感想を教えてください。

（参加者）

有意義であった	有意義ではなかった	どちらともいえない
18	0	1

参考：（傍聴者）

有意義であった	有意義ではなかった	どちらともいえない
3	0	1

その他（グループワークの参考になった）

問3 本日心に残ったキーワードやフレーズを御記入ください。

(参加者) ✓多摩学教育連携センター

- ✓企業は大学と連携したがっている。
- ✓3大学の得意分野を集結させて、地域課題を研究。
- ✓授業やゼミなど共同プロジェクトに単位が付く
- ✓「先生方はいつも盛り上がるんですよね」という大学事務の方のご意見
- ✓属人的でなく組織として安定、継続。
- ✓それぞれの機関・団体が“主体的”に連携する。
- ✓人が入れ替わってもつながり続けられる仕組み。
- ✓日常的なつながりと非日常のつながりを分けて考える。
- ✓資金面で地元企業とも連携する。
- ✓見える化 サポーターの募集

- ✓ 本当のオープンキャンパス
- ✓ 無理せず継続
- ✓ まちづくりDX研究センター
- ✓ 3大学が連携したブースを登戸たまがわマルシェに出す。
- ✓ つながりの断絶
- ✓ つながり
- ✓ 多摩学研究所
- ✓ 学生、教員、地域すべてが関わる場

- 参考：
(傍聴者)
- ✓ コミュニティバス
 - ✓ つなぐ
 - ✓ 3大学
 - ✓ 多摩学
 - ✓ カフェなどハイブリットに大学でやる。

問4 本日の車座集会について、感想や御意見等を御記入ください。

(参加者)

- ✓ 学生の立場としては、教員、事務、行政の方に話が聞いてもらえる機会は珍しく貴重でした。具体的な対策や方法を今後も関係者で話し合いたい。
- ✓ グループワークの時間が少し不足していると感じた（意見交換まではできていない）。
- ✓ 他大学の学生と交流する機会をつくることは、なかなか難しいと感じた。地域団体や学生もそれぞれ良い活動をしているので、お互いに知ることができる仕組みができると良い。
- ✓ 「多摩学教育研究センター」、「本当のオープンキャンパス」、「授業やゼミなど共同プロジェクトに単位が付く」等、様々なアイデアが出たが、どれも課題感やアイデアは似ており、全てのアイデアを生かした形で統合できそう。
- ✓ 貴重なアイデアが出てきて、今後3大学と地域の連携を深めるにあたり非常に参考になるのではないか。
- ✓ 多摩S D Cと大学の連携について、すぐ動けそうなものもや、検討を進めれば実現可能性の高そうなものもあり今後が楽しみ。
- ✓ 市長が進行する形式、興味深かった。
- ✓ とてもテンポ良く楽しく進み、初めての参加でも充実して過ごせた。
- ✓ 少し内容は違いつつも、それぞれの活動や研究を進めている中で、活動の場の連携、情報の共有など、協力できそうな団体との連携をそれぞれが共通して望んでいるため、これから連携や協働の未来に可能性を感じた。

- ✓ 話し合うグループが変わったため、違った視点で考えられることが多く良かった。また、制限時間が設けられているため、頭を最大限に使って考えることができた。
- ✓ 学生、教員、事務局、行政、多摩SDCとそれぞれの立場からアイデアをぶつける試みは良かった。
- ✓ 他大学と交流する機会は中々ないので、意見交換することは地域をより良くする手法として続けていくべき。
- ✓ 教授同士で話が盛り上がっているのが印象的だった。交流のきっかけが重要だと感じた。
- ✓ フラットで良い。グラフィック素晴らしい。
- ✓ 市長の生の意見を伺えて良かった。
- ✓ 各教員、各大学の取組、思いを聞くことができ刺激を受けました。
- ✓ 大学と地域との連携から課題を解決する以前に3大学が交流できる場が必要。地域課題に何があるのか、大学や多摩SDCはどう対応できるのかの話も聞きたかった。
- ✓ 事務局と教授との想いの落としどころを見つけられるといいなと思った。
- ✓ 時間が足りなかった！もう少しお互いについて知りたい。
- ✓ 本日話し合ったことが実現できるように話し合っていきたい。LINKsとしても協力していきたい。

- 参考：
(傍聴者)
- ✓ 楽しかったです。
 - ✓ 大人（学生ではない）のお話多めだと感じた。これを聞いた全ての学生がどう感じるか気になった。
 - ✓ 今、自治会の役員をしていますが、活動が厳しくなっており、地域を考える時に、地域の生活を支えている自治会についても考えているといいなと思いました。

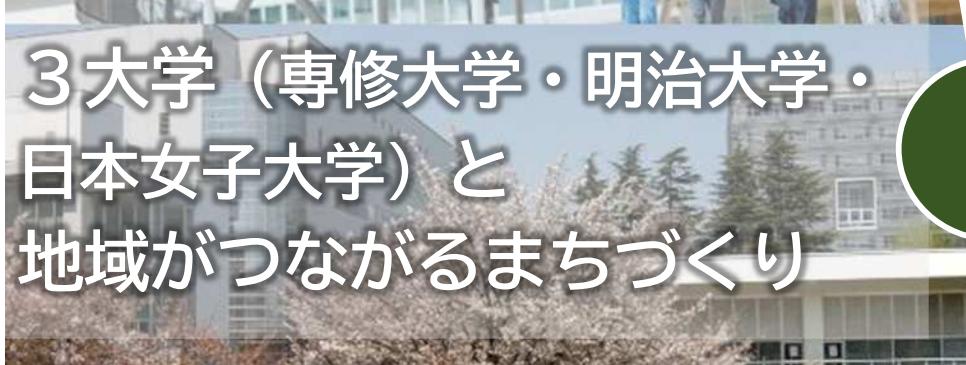
問5 車座集会で取り上げてほしいテーマや御意見などがありましたら、お聞かせください。

(参加者)

- ✓ 多摩区内 (or川崎市内) の生活道路と交通
- ✓ 多摩区内 (or川崎市内) の農地・緑地・川などの自然資源の保全活用
- ✓ 町内会、自治会、多摩SDCに関わりのない一般の市民が地域に関われるようにするにはどうしたらしいか。
- ✓ 高齢期の住まい方



第77回車座集会 (多摩区) 振り返り



3大学（専修大学・明治大学・
日本女子大学）と
地域がつながるまちづくり



1 ワークショップの成果

2 意見交換での主な意見

3 今後の取組

課題① 大学の知見を地域に還元、地域を研究のフィールドに

【専修大学】

★人がつながる仕組みをつくる

★人が集まる場をつくる

例：まちづくりDX研究センター

- ・他学部、他大の教員、学生と共同での研究
- ・行政や多摩SDCとの持続的なつながり

★人が集まる仕組みをつくる

- ・行政や地域のリアルなデータ、地域課題を集積

(これらの仕組み・場を活かして・・・)

○学内から出て現実を知る場をつくる

○リアルなデータや地域課題を基に研究を行う

【日本女子大学】

★大事なのは「つなぐこと」

○社会実験の宣伝

○地域の歴史の資料等を地域の人が気軽に見られるように
→情報の継承

○大学の授業を地域で受けられる制度

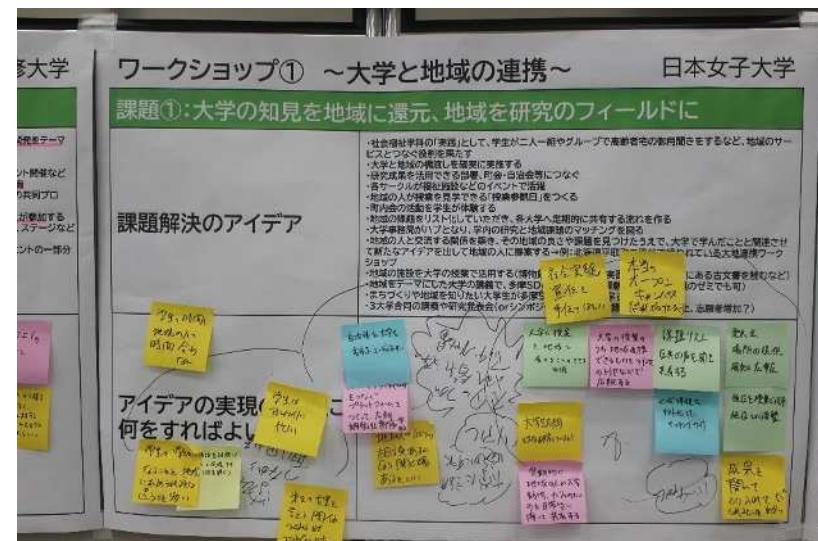
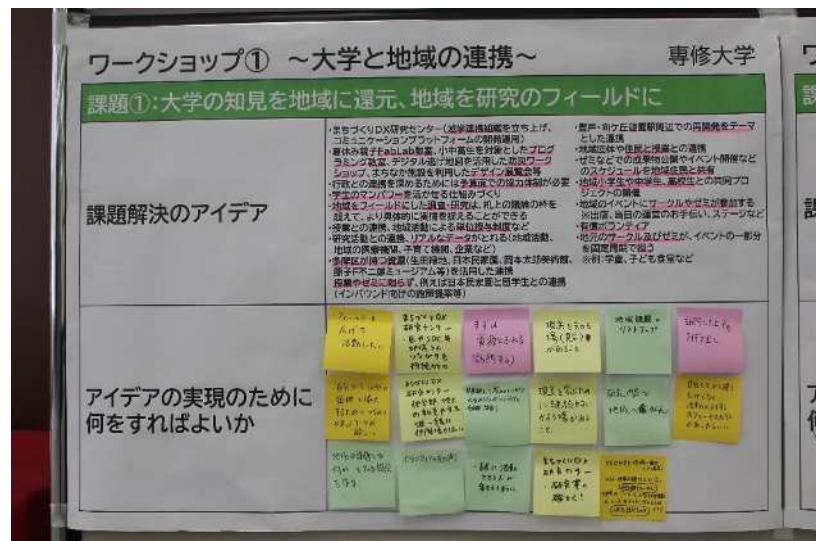
★マッチングの場の創出=スタッフが入れ替わっても続く場
(バーチャル)

○地域課題をリスト化したマッチングサイト

○地域連携できる大学の授業・研究等を行政で広報
(リアル)

○地域の方との相談の場

○公共施設の提供



1 ワークショップの成果 ワークショップ① 大学と地域の連携

課題② 学生によるまちの課題解決・活性化+多摩SDCの人材確保・育成

【明治大学】

- ★地域課題やデータ等の情報の整理・ビジュアル化
- ★関係者（大学・企業・行政・多摩SDC）同士のつながり強化

○イベントでの交流

（登戸・たまがわマルシェ、区民祭等への出店）

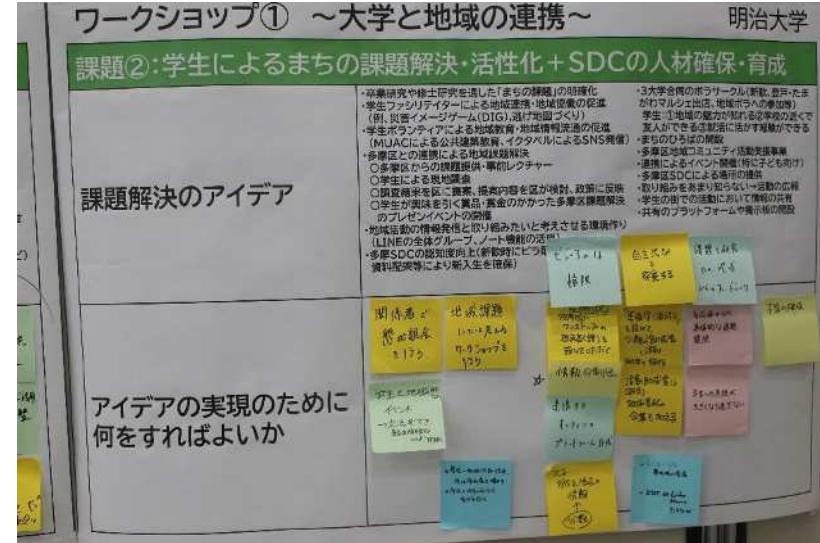
★課題に対する地域との交流

○地域課題を研究⇒地域で発表⇒フィードバックをもらう

★予算の確保

○行政の助成金

○企業からの支援



【参考】ワークショップ①のグラフィックレコーディング



1) ワークショップの成果 ワークショップ② 3大学同士の連携

3大学同士の連携案

大学教員	<p>多摩学教育研究センター</p> <ul style="list-style-type: none">・共同授業⇒活動助成⇒卒論・研究助成⇒公表 <p>⇒地域住民、地元高校生等への発表会</p>
	<p>本当のオープンキャンパス開催</p> <ul style="list-style-type: none">・子ども、町内会・自治会の人等が来る研究発表、施設紹介、学生の自主活動紹介
大学事務局	<p>3大学で得意分野を集結させて地域課題の研究を行い、そこに学生が主体的に関われるようにする</p>
	<p>学生や教員の交流の場、仕組みづくり</p>
学生	<p>学祭や地域イベントで3大学を回る機会を作る</p> <p>⇒大学ブースの出店や、事前準備での交流も期待できる</p>
	<p>授業やゼミなど共同プロジェクトに単位が付く⇒学生が参加しやすくなる</p>

2 意見交換での主な意見

主な意見

○多摩学研究教育センター

- ・共通科目として多摩区の歴史、地域課題を学ぶ、実践する
- ・単位もとれる共通授業、3大学の教員が交代で講義、地域研究・地域活動実践
- ・地域活動で単位取得できる
⇒学生のモチベーションUP
- ・大学単位での連携には課題が多い
⇒ゼミ単位での取組が現実的では

○3大学の施設共有が大学連携につながるのでは (ex. 富士通 Uvance Innovation Studio)

○日常（共通授業、ゼミ等）でつながる仕組みと 非日常（イベント等）でつながる仕組み

- ・学祭で3大学の交流の場を持つはどうか

○多摩SDCは交流や接点の場になりうるか？

- ・多摩SDCのイベント（登戸・たまがわマルシェ）に3大学連携のブースを出店
- ・その他、子ども食堂等多摩SDCの事業との連携
- ・交流の出口として、研究発表・卒論発表等の場を多摩SDCの活動報告会等の場で実施
⇒地域の人に研究発表できる場

【参考】意見交換のグラフィックレコーディング



3 今後の取組

